まほろん「ふくしまの上古刀」関連講演会 2　　2022 年 11 月 26 日

東北日本の古墳時代装飾付大刀とその所有者

菊地　芳朗

はじめに

・ 本講演の目的

・ 装飾付大刀とは

鉄以外の金属で装飾が行われた大刀の総称。別称「飾大刀」、「装飾大刀」。
規模や副葬品において優れた内容をもつ古墳から出土することが多い。
古墳時代刀剣類の変遷（表 1）。　←装飾付大刀は、後期後半以降に汎列島規模で展開。

１．装飾付大刀について

（１）装飾付大刀の各種（図 1～6）

・倭風装飾付大刀

・環頭大刀（単龍・単鳳、双龍・双鳳、三葉、三累、獅噛）

・頭椎大刀

・円頭大刀（A 類・B 類）

・圭頭大刀（A 類～C2 類）

・方頭大刀

・その他

象嵌大刀、金銅装大刀、銀装大刀など

・7 世紀後半以降の大刀（図 7）

蕨手刀、方頭大刀（黒作大刀）、唐様大刀など

（２）装飾付大刀の変遷と年代

・新納泉による装飾付大刀編年（新納 1987　図 8）

・装飾付大刀の諸段階（菊地 2010　表 2）

A 段階（～5 世紀末）：

B 段階（6 世紀初頭～6 世紀中葉）：

C 段階（6 世紀後葉）：

D 段階（6 世紀末～7 世紀前葉）：

E 段階（7 世紀前葉～）：

・8 世紀以降の大刀と正倉院収蔵大刀

２．東北と装飾付大刀

（１）東北で出土している装飾付大刀（表 3）

・出土する種類（表 4）

・地域による違い（表 5）

（２）装飾付大刀所有者の性格

・遺跡による出土傾向（表 6）

・所有者はどのような人物か

・他地域との違いはあるのか

おわりに

装飾付大刀から何がわかるか

【文献】

大谷晃二ほか 1999『上塩冶築山古墳の研究』，島根県古代文化センター

菊地芳朗 2010『古墳時代史の展開と東北社会』，大阪大学出版会

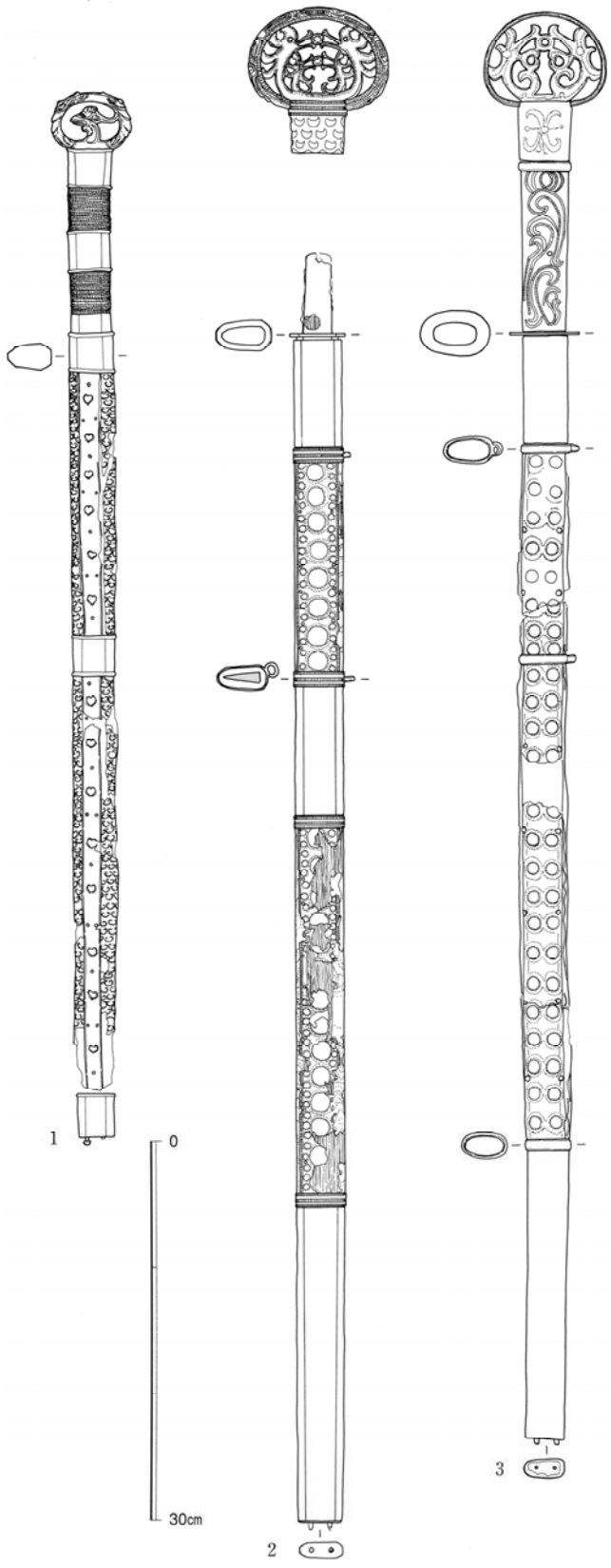
正倉院事務所編 1977『正倉院の大刀外装』，小学館

新納　泉 1987「戊辰年銘大刀と装飾付大刀の編年」『考古学研究』第 34 巻第 3 号，考古学研究会

橋本英将 2013「装飾大刀」『古墳時代の考古学 4』，同成社

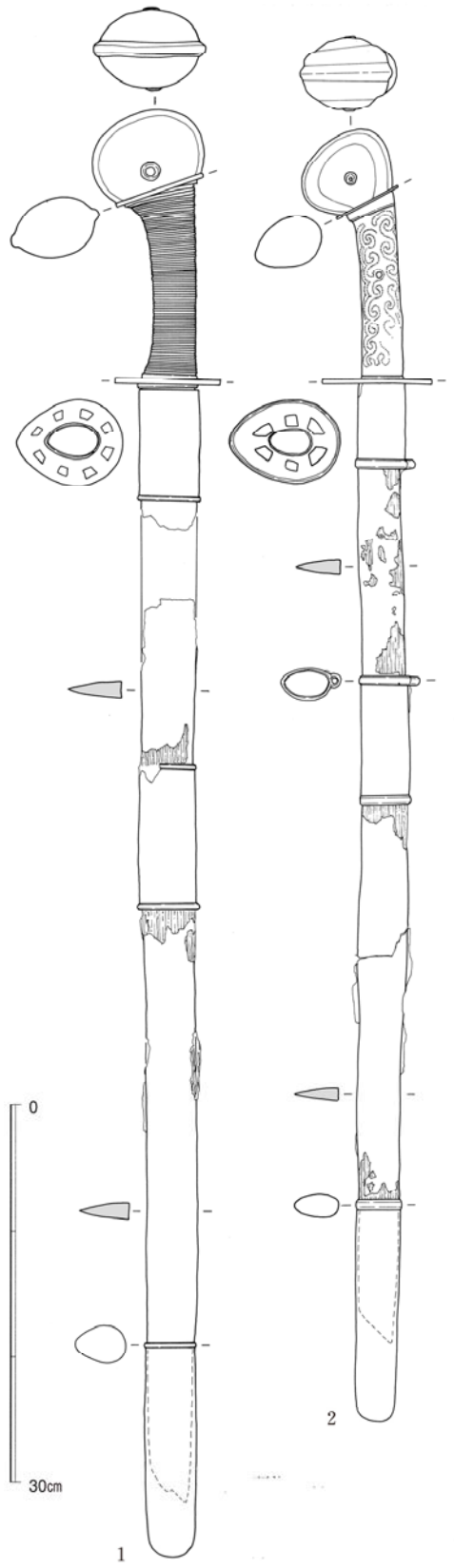
	剣	槍	大刀（素環頭大刀）	鉾	刀剣類時期区分	
弥生時代	・日本列島に出現（九州北部 中期中葉）。まもなく短剣の生産開始 ・関東まで出現・生産（後期後半） ・地域性顕著	・存在不明確。未成立の可能性大	・素環頭刀日本列島に出現（九州北部 中期後葉）。素環頭大刀僅少 ・日本列島内生産未確認 ・日本海沿岸西部に舶載大刀分布	・日本列島に出現（九州北部 中期中葉）。総数僅少 ・ほぼすべて舶載品 ・中期のうちに断絶	1期	
古墳時代早期	・刃関双孔短茎剣の生産・副葬終了	・柄の３材構造確立（山形柄縁） ・各地有力古墳に副葬。広域に分布	・近畿の最有力古墳へ素環頭大刀副葬		2期	古墳時代刀剣類Ⅰ期
古墳時代前期	・古墳への副葬一般化（短剣中心） ・古墳副葬刀剣類の主体。実戦的武器 ・少数の長剣（舶載品主体）。長剣生産開始か ・複数副葬・多量副葬成立	・古墳への副葬一般化 ・古墳副葬刀剣類の主体。実戦用武器 ・一直線柄縁槍出現（前期初頭）、普及（前期前葉） ・複数副葬・多量副葬成立	・古墳副葬開始。列島内生産開始か ・各地有力古墳に限定的に副葬 ・大型古墳に複数副葬 ・実戦上効果なし	・古墳副葬品として再出現。一部列島内生産か ・大型古墳へ単数副葬 ・総数僅少。形態多様	3期	
	・長剣普及 ・近畿を中心に多量副葬例増加	・近畿を中心に多量副葬例増加 ・減少傾向	・安定落とし込み技法採用の大刀出現・増加 ・副葬例・副葬数増加。近畿を中心に多量副葬例増加	・副葬例微増 ・古墳副葬例増加（西日本中心）	4期	古墳時代刀剣類Ⅱ期
古墳時代中期	・蛇行剣・鹿角装剣出現	・関柄縁槍一般化 ・副葬例大幅減少	・副葬刀剣類の主体へ向かう	・金官加耶系基部山形抉り鉾出現 ・複数副葬例出現・増加 ・実戦使用の可能性有 ・多量副葬例無	5期	
	・長剣一般化 ・多量副葬例減少。消滅 ・少数の装飾付剣・象嵌剣 ・副葬数減少	・生産・副葬激減。ごく少数の山形柄縁槍 ・鉄装槍成立。各地の有力古墳から出土 ・この期のうちに生産・副葬終了	・副葬刀剣類の中心 ・装飾付大刀・象嵌大刀成立（僅少） ・多量副葬例減少。消滅 ・鹿角装大刀普及	・無関鉾成立 ・大加耶系多角形袋式鉾出現。有力古墳に副葬 ・各地の古墳に副葬。実戦的武器	6期	
古墳時代後期	・生産・副葬終了。一部有力古墳への副葬残る		・捩り環頭大刀成立 ・金属装微増。鉄製鐔・鉄製鍔・両関成立（いずれも少数） ・一部極大化。少数副葬一般化 ・有力古墳に装飾付大刀が副葬（少数）	・三角形穂式鉾出現。有力古墳に副葬 ・副葬例減少。実戦武器からの後退顕著	7期	古墳時代刀剣類Ⅲ期
古墳時代終末期			・二足佩用金具出現 ・両関金属装完成。落とし込み技法終了 ・規格生産装飾付大刀が各地中小古墳に副葬 ・近畿の古墳への副葬ほぼ終了 ・鉄装大刀の副葬例増加（近畿以外） ・軽薄短小化傾向始まる。佩用装具一般化	・生産・副葬が終了へ向かう	8期	
古墳時代以降			・装飾付大刀生産・副葬終了。方頭大刀成立 ・軽薄短小化進展。双脚足金具出現 ・近畿外の古墳への副葬継続するも副葬例減少 ・唐様大刀成立 ・東北北部以北をのぞき墳墓への副葬終了		9期	

表１　弥生時代～古墳時代における刀剣類の変遷とその内容（菊地 2010）　菊地 **3 / 10**



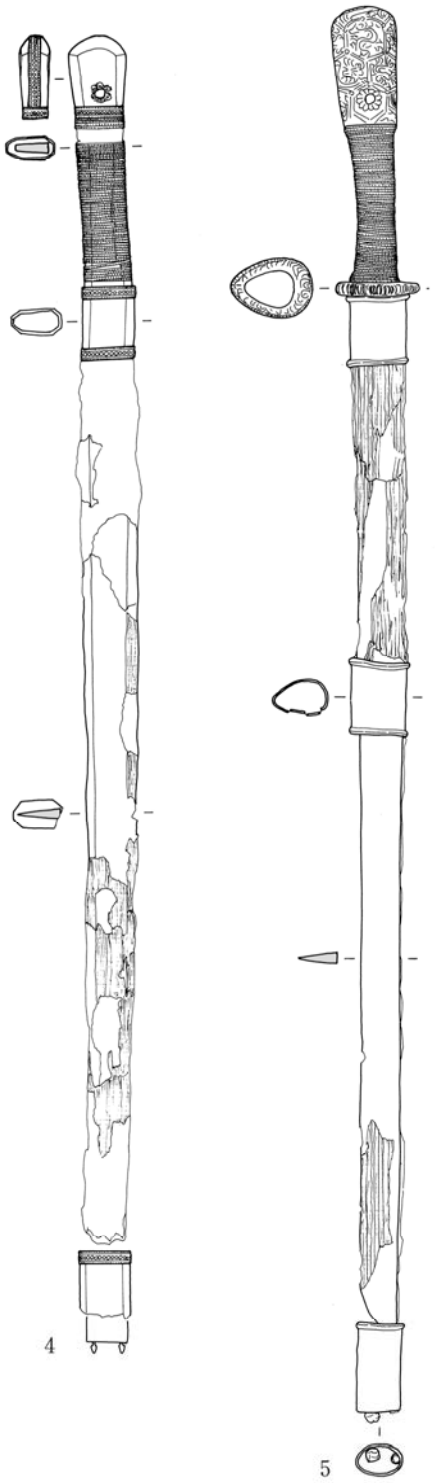
1　単鳳環頭大刀（群馬県平井地区１号墳）
2　双龍環頭大刀 古式（京都府湯舟坂２号墳）
3　双龍環頭大刀 新式（千葉県金鈴塚古墳）

図１　環頭大刀（菊地 2010　以下の図表全て同じ）



1　古式（千葉県金鈴塚古墳）
2　新式（千葉県金鈴塚古墳）

図２　頭椎大刀



4　A類（島根県岡田山１号墳）
5　B類(群馬県平井地区１号墳)

図3　円頭大刀

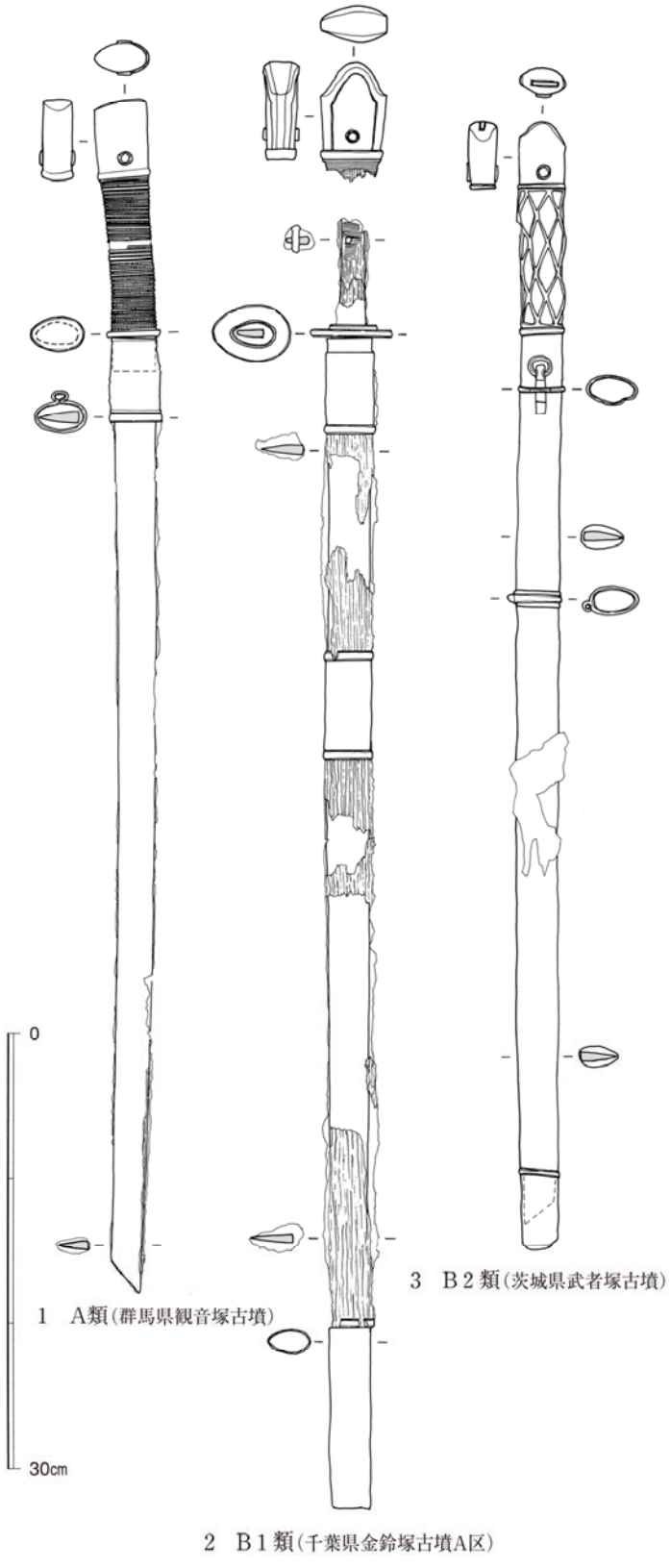
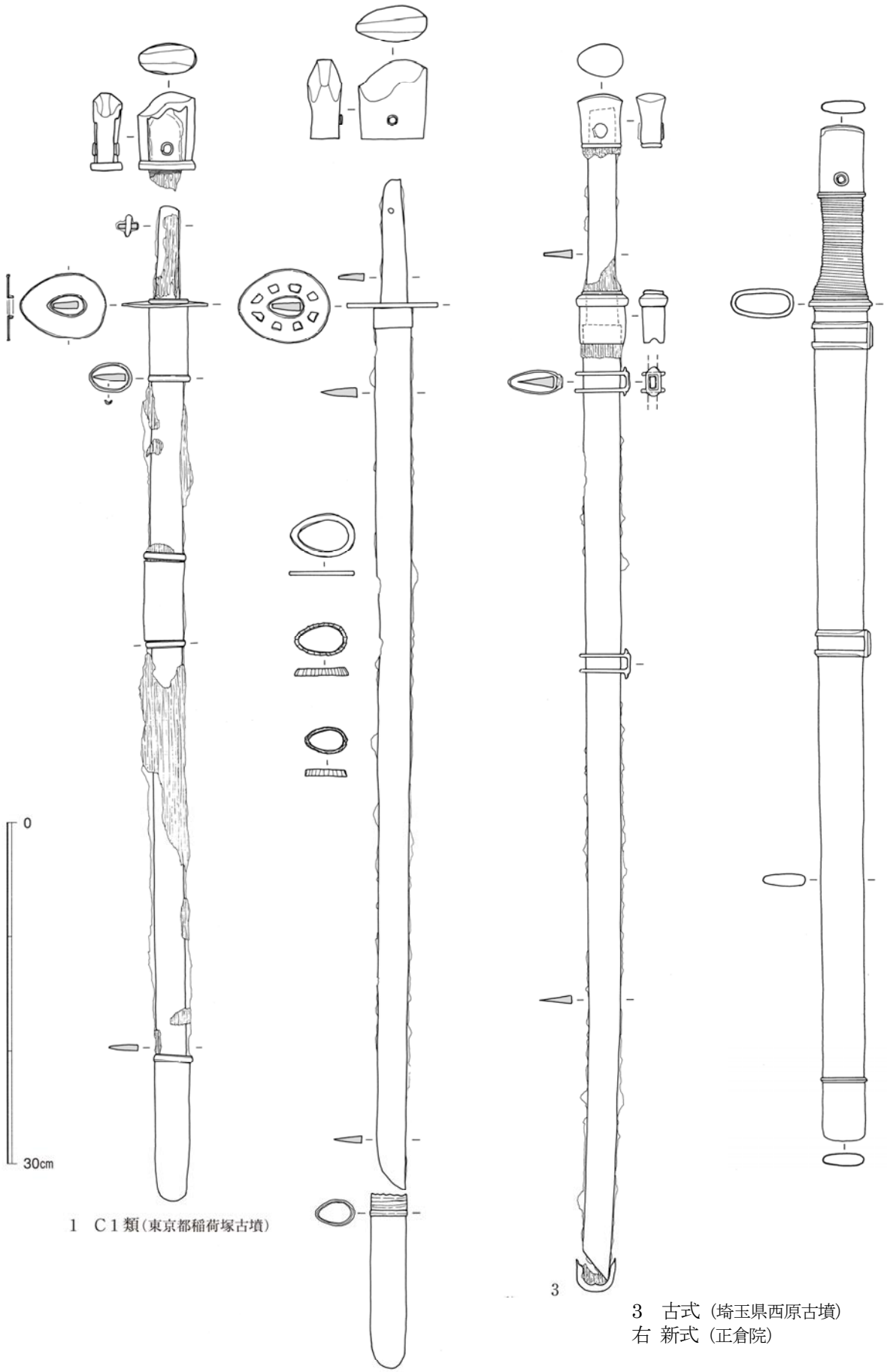


図4　圭頭大刀１



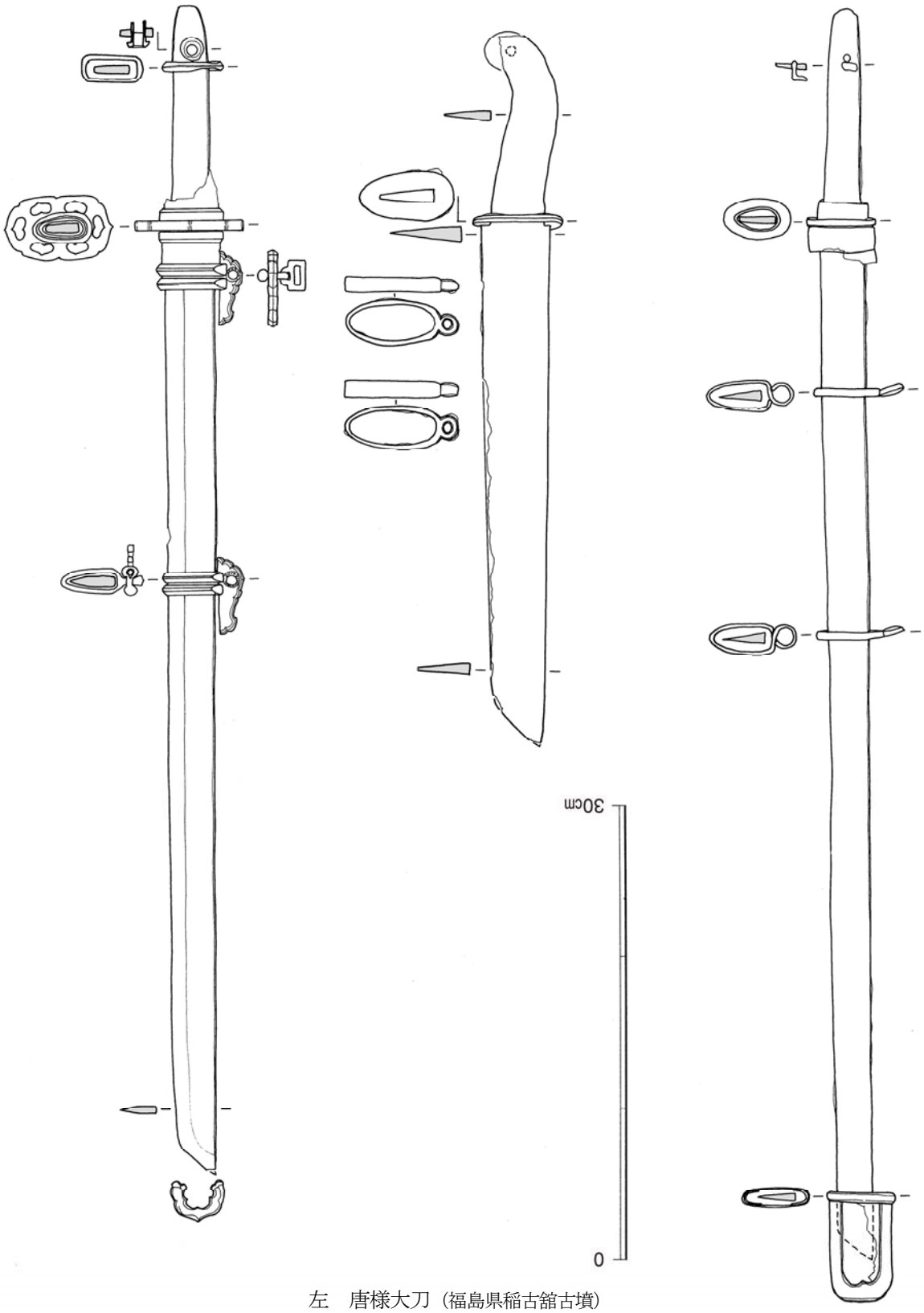
1　C１類（東京都稲荷塚古墳）

2　C２類（茨城県小栗地内I号墳）

図５　圭頭大刀２

3　古式（埼玉県西原古墳）
右　新式（正倉院）

図６　方頭大刀



左　唐様大刀（福島県稲古舘古墳）
中　蕨手刀（群馬県下触牛伏 1 号墳）
右　木装方頭大刀か（福島県笊内 26 号横穴）

図 7　その他の大刀

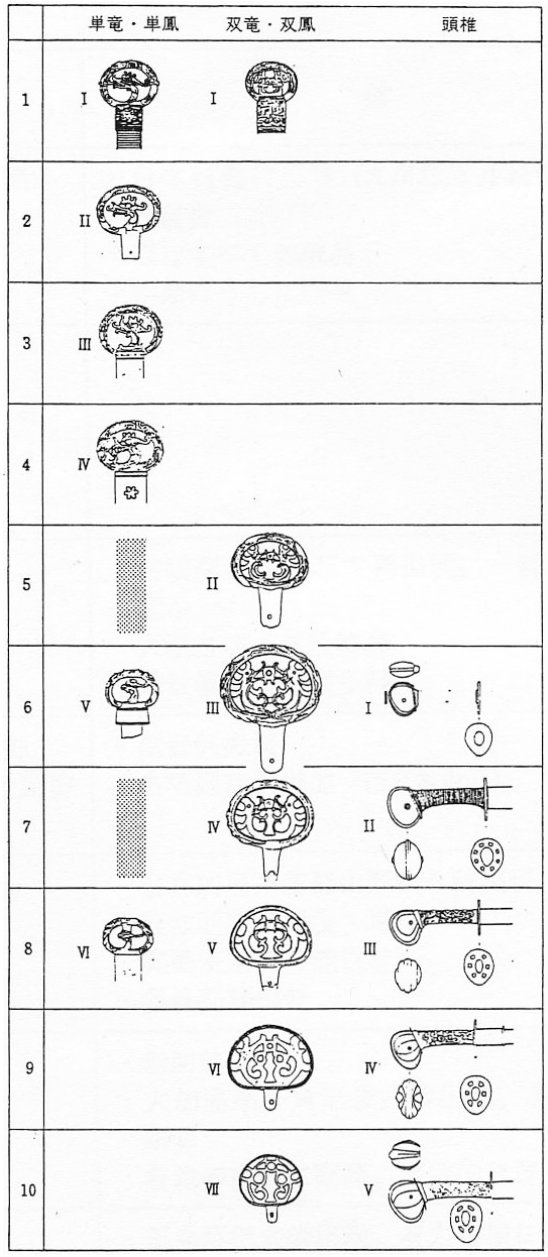


図8　新納泉による装飾付大刀編年
（新納 1987）

表 2　装飾付大刀の諸段階とその内容

段階	年代	内容	おもな大刀
A	中期中葉～中期末 （5世紀前葉～末）	装飾付大刀生産の開始	装具の一部に金属を用いる刀剣、象嵌刀剣、舶載三累環頭大刀など
B	後期初頭～後期中葉 （6世紀初頭～中葉）	倭風装飾付大刀の生産開始	捩り環頭大刀などの倭風装飾付大刀、円頭大刀、舶載環頭大刀など
C	後期後葉 （6世紀後葉）	各種装飾付大刀の列島内生産が本格化	単龍鳳環頭大刀、双龍環頭大刀（古式）、円頭大刀など
D	後期末～終末期初頭 (6世紀末～7世紀前葉)	装飾付大刀生産が絞られ、かつ規格的製品が多数製作される	頭椎大刀、双龍環頭大刀（新式）、円頭大刀、圭頭大刀など
E	終末期～ (7世紀前葉～)	装飾付大刀生産が急速に縮小し、方頭大刀と一部大刀のみになる	方頭大刀、蕨手刀、唐様大刀など

表 3　東北出土の装飾付大刀（2010 年時点）

地　域	出土遺跡	大刀種類	段階	遺跡種類	規模 (m)	埋葬施設	備考
青森県	丹後平 15 号墓	獅噛三累環頭	C	墳墓	8.5	木棺直葬	周溝内出土
岩手県	膳性Ｄ･8･1 住居跡	圭頭	D	竪穴住居			
宮城県北部	五松山洞窟	圭頭	D	洞窟墓			
	五松山洞窟	双龍環頭？	D	洞窟墓			把頭なし
	矢本 49 号横穴	方頭	E	横穴			
	亀井囲 16 号横穴	方頭	E	横穴			
仙台平野	市川橋遺跡第56次調査	双龍環頭	C	包含層			把頭断片のみ
	大年寺山 10 号横穴	圭頭	D	横穴			
	二木 3 号横穴	頭椎	D	横穴			
	山囲古墳	頭椎	D	円墳		横穴式石室	
	熊野堂Ａ 28 号横穴	圭頭	D	横穴			
	大代 6 号横穴	頭椎	D	横穴			
宮城県南部	台町古墳群	単鳳環頭	A	円墳		箱形石棺	鉄地銀象嵌
	中山囲横穴群	圭頭	D	横穴			
	住社古墳群	象嵌円頭	D	円墳			周溝内出土
	鷹巣古墳群	象嵌円頭	C	円墳			出土古墳不明
	桜小路 26 号横穴	方頭	E	横穴			
山形県北部	伝鮭川村	双鳳環頭	B				出土古墳不明
山形盆地	大之越古墳 1 号棺	単鳳環頭	A	円墳？		箱形石棺	鉄地銀象嵌
置賜盆地	安久津古墳群	三累環頭	D	円墳		横穴式石室	1 号墳出土か
	狸沢山古墳群	方頭	E	円墳？		横穴式石室	
浜通り北部	相馬市坪田	単龍環頭	C				出土古墳不明
	伝相馬市	単鳳環頭	C				出土古墳不明
	福迫第 29 号横穴	双龍環頭	C	横穴			
	榎内古墳	単鳳環頭	C				出土古墳不明
	羽山 1 号横穴	頭椎	D	横穴			
浜通り中部	清戸迫 8 号横穴	頭椎	D	横穴			鉄製把頭
浜通り南部	白穴東 1 号横穴	双龍環頭	C	横穴			把頭なし
	大志田古墳	単鳳環頭	C	円墳		横穴式石室	
	中田 1 号横穴	捩環頭	C	横穴			
	中田 1 号横穴	捩環頭	C	横穴			
	中田 1 号横穴	象嵌円頭	C	横穴			
	中田 1 号横穴	象嵌円頭	C	横穴			
	八幡 24 号横穴	双龍環頭	D	横穴			把頭なし
	舘山 2 号横穴	圭頭	D	横穴			
	横山古墳群	三累環頭	C	円墳		横穴式石室？	
中通り北部	土橋 1 号	単龍環頭	C	円墳	13.5	横穴式石室	
	月ノ輪山 1 号墳羨道	頭椎	D	円墳	20	横穴式石室	
	月ノ輪山 1 号墳玄室	頭椎	D	円墳	20	横穴式石室	
	上条 2 号	圭頭	D	円墳	14.6	横穴式石室	
	浜井場	圭頭	D	円墳		横穴式石室	
	御春新田	象嵌円頭	D	円墳		横穴式石室	
中通り中部	渕の上 1 号	頭椎	C	円墳	20	横穴式石室	
	甲塚	単鳳環頭	D	円墳	20	横穴式石室	
	蝦夷穴	頭椎	D	円墳	37	横穴式石室	
	前原古墳群	圭頭	D	円墳		横穴式石室	
	跡見塚古墳群	頭椎	D				出土古墳不明
	根岸古墳群	圭頭	D	円墳	20	横穴式石室	出土古墳不明
	洞山横穴群	方頭	E	横穴			出土横穴不明
	蝦夷穴 12 号横穴	方頭	E	横穴			
	批把沢	三累環頭	C	円墳？		横穴式石室？	
	後作田	三累環頭	C				
中通り南部	伝下総塚古墳Ａ	頭椎	D	前方後円墳	58	横穴式石室	現物なし
	伝下総塚古墳Ｂ	頭椎	D	前方後円墳	58	横穴式石室	現物なし
	七軒 1 号横穴	圭頭	D	横穴			
	郭内 8 号横穴	象嵌円頭	D	横穴			
	白河観音山 3 号横穴	圭頭	D	横穴			

表 4　地域別・種類別にみた装飾付大刀

大刀 / 地域	単龍・単鳳環頭	双龍環頭	頭椎	圭頭	円頭	方頭	他	計	備　考
宮城県北部		1？		1		2		4	双龍は把頭なし
仙台平野		1	3	2				6	
宮城県南部				1	2	1		4	円頭２点は鉄地象嵌入
山形盆地								0	
置賜盆地						1	1	2	
浜通り北部	3	1	1					5	
浜通り中部			1					1	頭椎は鉄装
浜通り南部	1	2？		1	2		3	9	円頭２点は鉄地象嵌入 双龍は把頭なし
中通り北部	1		2	2	1			6	円頭１点は鉄地象嵌入
中通り中部	1		3	2		2	2	10	
中通り南部			2	2	1			5	円頭１点は鉄地象嵌入
会津盆地								0	
他				1			1	2	岩手県、青森県から各１点
計	6	5	12	12	6	6	7	54	

表 5　地域別・段階別にみた装飾付大刀

段階 / 地域	C	D	E	計
宮城県北部		2	2	4
仙台平野	1	5		6
宮城県南部	1	2	1	4
山形盆地				0
置賜盆地		1	1	2
浜通り北部	4	1		5
浜通り中部		1		1
浜通り南部	7	2		9
中通り北部	1	5		6
中通り中部	3	5	2	10
中通り南部		5		5
会津盆地				0
計	17	29	6	52

表 6　段階別・遺構種類別にみた装飾付大刀

遺構 / 段階	横穴式石室	横穴	他	不明	計
C	5	6	1	6	18
D	12	12	0	6	30
E	1	5	0	0	6
計	18	23	1	12	54